令和７年度学術賞受賞者〈臨床領域〉

光　冨　　徹　哉　博士

和泉市立総合医療センター　総長
近畿大学医学部　特別招聘研究教授

研究業績　肺がんの個別化治療に関わる基礎的および臨床的研究
Basic and Clinical Research on Personalized Treatment of Lung Cancer

光冨 徹哉博士のプロフィール

光冨徹哉博士と私は九州大学医学部の同級生です。共にサッカー部に所属し、勝利を目指して走り回った仲です。学業成績も優秀で、音楽にも造詣が深く、周囲から一目置かれる存在でしたが、本人はいたって自然体でした。

卒業後も共に九州大学第二外科に入局して臨床の道に進み、患者さんと直接向き合う医療の現場に身を置きました。その一方で、「同じ肺がんであっても、治療の効果が大きく異なるのはなぜか」という疑問を持ち続けていました。その答えを求めて米国国立癌研究所に留学し、Gazdar博士、Minna博士の薫陶をうけ、がんの性質を遺伝子のレベルで理解する研究に取り組んだ経験は、その後の歩みを決定づける大きな転機になったようです。

帰国後は、愛知県がんセンターにおいて肺がんの診療・研究を牽引し、さらに近畿大学では呼吸器外科主任教授として多くの人材を育ててきました。同時に、肺がんの遺伝子異常に関する研究と臨床試験を一体として進め、患者さん一人ひとりに適した治療を選ぶ「個別化医療」を、実際の医療現場に根付かせてきました。研究成果を論文として発表するだけでなく、それを現実の治療として患者さんに届けるところまでやり抜く姿勢は一貫していると思います。

こうした取り組みは国内外で高く評価され、日本肺癌学会理事長、さらに世界肺癌学会理事長として国際的な学術活動を率いてきました。しかし光冨君自身は、そうした肩書きを誇るというより、常に臨床と研究の現場に軸足を置き続けている印象があります。

現在は和泉市立総合医療センター総長として地域医療の中核を担いながら、近畿大学特別招聘研究教授として研究活動も続けています。学生時代に培ったチームワークと粘り強さを原点に、世界最先端の医学と地域に根ざした医療を結びつける挑戦を続けている点こそが、光冨徹哉博士の大きな魅力であり、本学術賞にふさわしい理由であると考えています。

（文責　森　　正樹）

業績のあらまし

光冨徹哉博士は、肺がん研究において、基礎研究と臨床研究を有機的に結びつける、いわゆるトランスレーショナルリサーチを一貫して推進し、世界の肺がん医療の発展に大きく貢献してきました。とりわけ、肺がんの発生や治療反応性を規定する「ドライバー遺伝子変異」に着目した一連の研究は、現在の個別化医療の基盤を築いたものと評価できます。

博士は、米国国立癌研究所への留学経験を通じてがんの分子生物学的理解が臨床を大きく変え得ることを学び、帰国後、肺がんにおける遺伝子異常の解析を精力的に進めました。特に、EGFR遺伝子変異に関する研究では、変異の種類と治療効果との関連、KRAS変異との相互排他性、さらには治療中に生じる耐性機序の解明など、世界に先駆ける数多くの成果を挙げています。これらの知見は、EGFR阻害薬を用いた治療戦略の確立に直結し肺がん診療の在り方を根本から変える契機となりました。

さらに博士は、EGFR変異によって患者選択を行った世界初の第III相無作為化比較試験であるWJTOG3405試験を主導しました。この試験は遺伝子変異によって患者選択を行うという点で、全癌腫において初めての試験であり、遺伝子変異に基づく患者と治療の選択が生存を改善し得ることを明確に示しました。まさに、がんゲノム異常による個別化医療時代の幕開けを告げる研究として、国際的にも高く評価されています。

その後も、ALK、MET exon14スキップ変異、KRAS G12C変異など、新たなドライバー遺伝子や獲得耐性機構の解明に取り組み、基礎実験と臨床試験を往復する形で、次々と治療戦略の進化に寄与してきました。また、血中循環腫瘍DNAを用いた解析にも早くから着目し、臨床応用の可能性について検討してきました。

近年は、免疫チェックポイント阻害薬を用いた周術期治療の分野においても重要な役割を果たし国際共同臨床試験で主任研究者を務めるなど、外科治療と薬物療法を統合した新たな肺がん治療の確立に貢献しています。これら一連の研究はいずれも、臨床現場の課題を出発点とし、患者さんに還元することを最終目標としている点に、博士の研究姿勢の本質があります。

以上のように、光冨徹哉博士は、肺がんの分子基盤の解明から標準治療の確立に至るまで、世界の肺がん医療を牽引してきました。その業績は質・量ともに卓越しており、本学術賞に極めてふさわしいものと考えます。　（文責　森　正樹）

略　歴

1980年　九州大学医学部卒業、九州大学　第二外科入局
1982年　九州大学大学院　医学研究科
1988年　九州大学医学部附属病院　第二外科　助手
1989年　米国国立癌研究所
1991年　産業医科大学　第二外科　講師
1995年　九州大学　第二外科　助教授
1995年　愛知県がんセンター　胸部外科部長
2012年　近畿大学　医学部呼吸器外科　主任教授
2022年　近畿大学病院　特任教授
2024年　和泉市立総合医療センター　総長、近畿大学　医学部　特別招聘研究教授、現在に至る